

2022年 3月27日(日)
10:00-11:30

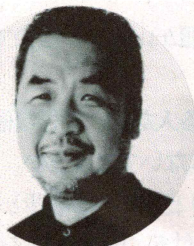
会場
別府市役所
5階 大会議室

定員 30名
先着・要申込
参加無料



ダイアログ・イン・ザ・
ダーク・ジャパン創始者

志村 真介



陶器・ガラス工房ラバロマ
代表

中野 伸哉

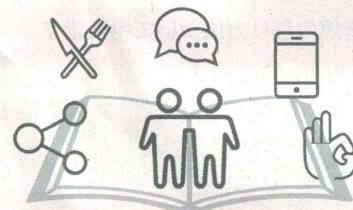


株式会社オープン・エー
代表取締役

馬場 正尊

中野 伸哉

陶器・ガラス工房 ラバロマ代表、現地新聞社のイラストレーターとしてオーストラリアへ移住。現地で出生した息子マーク周作が、帰国後自閉症であると診断され、1999年に関東半島に移住し、陶器・ガラス工房を開く。
現在、県内企業、行政、障がい者施設等のプロデュースやアドバイザーも勤める。




※敬称略

- ・手話通訳、要約筆記あり
- ・後日YouTubeにて配信予定

| | | | |
|---|----------------------------|-------------------------------------|---|
| 1 | プレゼンテーション 各15分×2組 (30分) | 志村 真介 ダイアログ・イン・ザ・ ダーク・ジャパン創始者 | ・ DE&I ² (ダイバーシティ、エクイティ※ &インクルージョン×イノベーション) |
| | | 中野 伸哉 陶器・ガラス工房ラバロマ 代表 | ・逆転の発想で『既存概念』を覆す 図書館の場づくり |
| 2 | ディスカッション | 事前に頂いた/会場からのご質問・ご意見を受け、ディスカッション | |

※ エクイティ：公平性。情報、機会、リソースへのアクセスを、すべての人に公平な扱いを保障しようとするもの

この参加申込表を下記 FAX かメールアドレス宛にお送りください。

| | | |
|------------------|---|---|
| 氏名 (ふりがな) | | 参加するプログラムに☑をご記入下さい。 3/26 (土) 実証プログラム「エアカフェ®」 <input type="checkbox"/> 13:00 <input type="checkbox"/> 15:00 3/27 (日) オープンプラットフォーム会議 vol.8 <input type="checkbox"/> 参加 <input type="checkbox"/> 不参加 |
| 同伴参加者名 (ふりがな) | | |
| 緊急 連絡先 | Tel: Mail: | 参加の様子を、別府市の YouTube チャンネルにて動画配信致します。写真及び動画の撮影についてご承諾をお願いします。(複数のお申し込みの場合、記載されたすべての方が同意したものとみなします) <input type="checkbox"/> 同意します <input type="checkbox"/> 同意しません |
| ご質問・ご意見 | 別府市新図書館等整備事業、本プログラムやパネルに対してご質問・ご意見があれば、こちらにご記入ください。 ※オープンプラットフォーム会議でご意見として取り上げる場合があります。氏名を公表することに支障がある場合は、ペンネームなどをお書きください。 | |
| | | WEB からでもお申込み 頂けます。  参加申込フォーム |

※ご記載頂いた個人情報は、本事業実施以外の目的には使用いたしません。

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

申込・問合せ先：別府市教育部教育政策課教育施設整備室
MAIL: lib-seibi@city.beppu.lg.jp

TEL:0977-21-1777
FAX:0977-22-5100

別府市新図書館等整備事業 実証プログラム

マスクをしたまま「おいしく」話せるカフェ 「エアカフェ®」

2022年3月26日(土)
13:00- / 15:00-

会場
別府市役所
5階 大会議室

各回 16名
先着・要申込
参加無料

コロナ禍や人口減少社会など、これまで経験したことのない不安や課題が山積する社会では、新たな知恵や発想を生み出すことがますます求められています。

障がいがある人ない人、高齢者、子ども、外国人、育児や介護に携わる人など、多様な個性や環境にいる人々が集まることで「新たな知恵」が生み出される可能性が、新しい図書館にはあるのではないのでしょうか。

多様な人たちが、互いの能力や考え方、経験を認め合い、くらしのよりどころや居場所となるため、

エアカフェ®によるコミュニケーション体験を通じて、既存概念への気づき、図書館のアクセシビリティ※機能の充実や、図書館の在り方について考えます。

※年齢や身体的条件など制約に関係なく、物理的環境、輸送機関、情報通信及びその他の施設・サービスを利用できること。

コロナ禍で生まれたマスクをしたまま「おいしく」話せるエンターティメント 「エアカフェ®」

～先行きの見えない今こそ、想像力と対話の力を楽しもう！～



このカフェには、コーヒーもケーキも、カップもお皿もありません。“エア”なカフェの文字通り、実際には飲食はできません。表情とボディランゲージのプロであり「ダイアログ・イン・サイレンス」でアテンド（案内人）を務める聴覚障がいのスタッフがカフェ店員に扮し、“エア”パフォーマンスで本物以上においしいカフェメニューをご提供します。

新型コロナウイルス感染拡大以前、街中のカフェにはたわいもないおしゃべりや偶然の出会いといった「ダイアログ＝対話」が溢れていました。

しかし感染拡大以降、私達はその「対話の場」を創出することさえ諦めてしまっているように思います。

同時に、マスク着用等のコミュニケーションに制約の多い今だからこそ、聴覚障がいのある人が持ちうる非言語コミュニケーションをともに体験することで、その可能性を感じていただけます。

日時：2022年3月26日（土）13:00- / 15:00-

定員：16名／回 所要時間：約60分

対象：小学生以上から参加可能です。

但し、小学生は保護者の同伴が必要となります。

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、内容の変更や開催を見合わせる可能性があります。

右記のQRコードから、エアカフェ®の動画をご覧ください



開催協力：ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、1988年ドイツの哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案によって生まれ、これまで世界50カ国以上で開催され、900万人が体験し、日本では1999年の初開催以降、23万人以上が体験しています。ダイアログ・イン・サイレンス～静けさの中の対話～は、音のない世界で、言葉の壁を超えた対話を楽しむソーシャルエンターティメント。体験を案内するのは、音声に頼らず対話をする達人、聴覚障がいのある人のアテンドで、静寂の中で集中力、観察力、表現力、ボディランゲージなど、音や声を出さず、互いにコミュニケーションをとる方法を発見し、解放感のある自由を体験することができます。たとえ母国語の異なる人であっても、想像以上の交流が深まります。



公式WEBサイト



志村 真介

ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン創始者
ダイアログ・ジャパン・ソサエティ理事

※敬称略

1999年からダイアログ・イン・ザ・ダーク（DID）の日本開催を主宰。新聞記事でDIDと出会い、ドイツ人の発案者ハイネッケに手紙を書き開催の承諾を得る。体験者23万人以上。2017年から静寂の中を聴覚障がいのある人が案内するダイアログ・イン・サイレンス（DIS）を開催。2020年、東京竹芝にダイバーシティを体験・対等に対話できるミュージアム「対話の森」オープン。
著書『暗闇から社会が変わる』講談社現代新書

申込・問合せ先：別府市教育部教育政策課教育施設整備室
TEL:0977-21-1777 FAX:0977-22-5100 MAIL: lib-seibi@city.beppu.lg.jp
運営協力：株式会社 Open A

 別府市